

◆ 今週のコメント

- ・ レジオネラ症(肺炎型)の報告が、1例(女性、70歳代)あります。症状は発熱・咳嗽・呼吸困難・下痢・意識障害・肺炎・多臓器不全・その他(脱力)です。推定感染地域は国内で、推定感染経路は水系感染です。本年の累積報告数は8例となっています。
- ・ 梅毒(早期顕症・Ⅱ期)の報告が1例(男性、20歳代)あります。推定感染地域は国内で、推定感染経路は性的接触(異性間)です。本年の累積報告数は6例となっています。
- ・ 侵襲性肺炎球菌感染症の報告が1例(男性、20歳代)あります。平成25年4月1日から五類感染症(全数把握感染症)に追加されて以降、累積報告数は11例となっています。
- ・ 風しん(検査診断例)の報告が1例(男性、50歳代)あります。本年の累積報告数は210例となっており、風しんが定点把握疾患から全数把握疾患に変更(平成20年)以降、最も多かった平成24年の累積報告数(26例)と比べて、約8.1倍となっています。全国の累積報告数も14,270例と平成24年(2,391例)と比べて、約6.0倍となっています。
- ・ A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり報告数は1.00(41例)で、前週 0.59(24例)に比べ約1.7倍増加するとともに、過去5年平均値を上回っています。今後の動向にご注意ください。
- ・ RSウイルス感染症の定点当たり報告数は0.78(32例)で、前週 0.90(37例)より減少しているものの、第34週(8月19日～8月25日)以降、10週連続で過去5年平均値を上回っています。「感染症法」において定点把握対象に指定された平成16年以降の同時期と比較して、最も多い報告数となっています。今後の動向にご注意ください。

◆ 今週のトピックス: < 感染性胃腸炎 >

感染性胃腸炎の定点当たり報告数は4.02(165例)で、前週 2.44(100例)に比べ約1.6倍増加しています。詳細をトピックスに掲載しています。

◆ 発生状況

全数把握の感染症

- ・ 四類:レジオネラ症(肺炎型) 1例【1月以降の累積報告数 8例】
- ・ 五類:梅毒(早期顕症・Ⅱ期) 1例【1月以降の累積報告数 6例】
- ・ 五類:侵襲性肺炎球菌感染症 1例【1月以降の累積報告数 11例】
- ・ 五類:風しん(検査診断例) 1例【1月以降の累積報告数 210例】

定点把握の主な感染症

(市内定点数 インフルエンザ定点68, 小児科定点41, 眼科定点10, 基幹定点1)

定点	感染症名	定点当たり報告数	報告数
インフルエンザ*	インフルエンザ	0.04	3
小児科 (降順5位まで)	① 感染性胃腸炎	4.02	165
	② A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	1.00	41
	③ RSウイルス感染症	0.78	32
	④ 水痘	0.71	29
	⑤ 手足口病	0.44	18
眼科	流行性角結膜炎	0.60	6

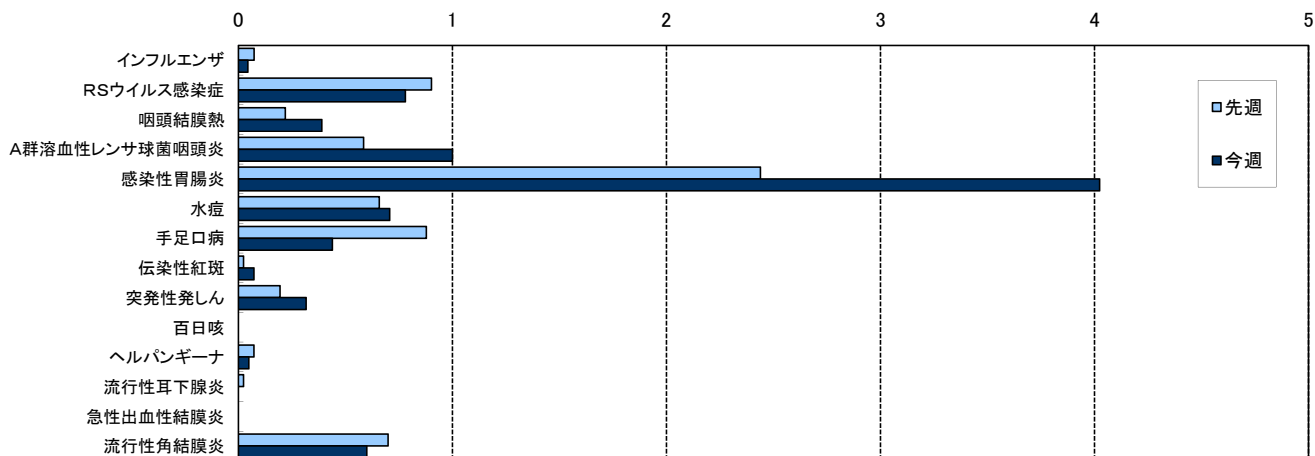
【次ページ以降の主な内容】

発生状況の概況グラフ / 今週のトピックス: < 感染性胃腸炎 >

(注) 京都市のデータは、平成25年11月21日現在の報告数で、全国の還元データと若干異なる場合があります。また、本情報での患者数は、届出医療機関所在地での集計で、患者の住所を示すものではありません。

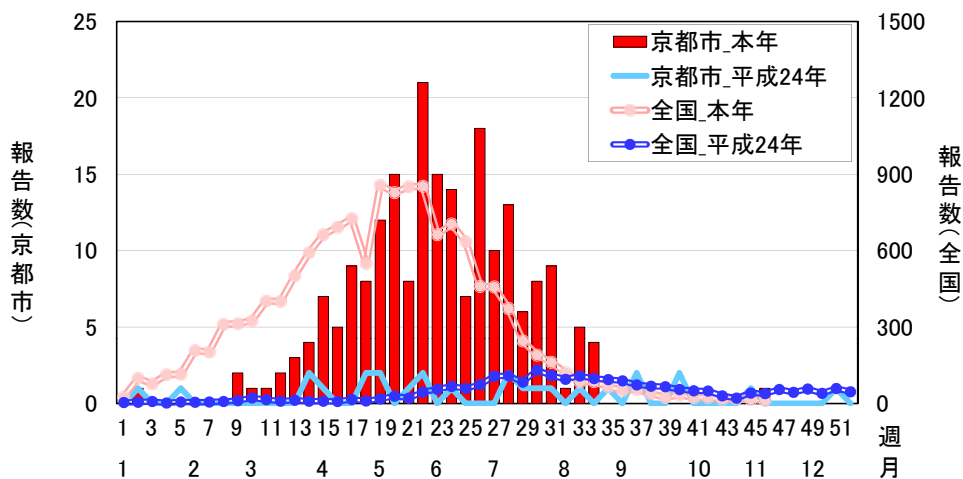
◆ 発生状況の概況グラフ

1 今週(第46週)と先週(第45週)の定点当たり報告数の比較



2 風しんの推移

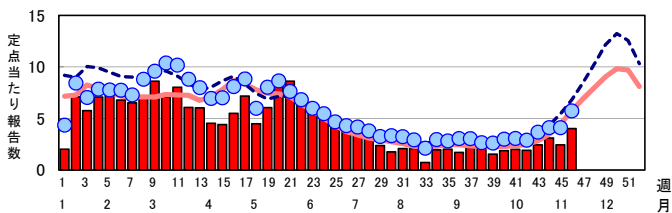
今週の報告数(累積報告数) 平成25年11月21日現在	
京都市	1例 (210例)
京都府(京都市を除く)	0例 (113例)
近畿6府県	2例 (5232例)
全国	13例 (14270例)



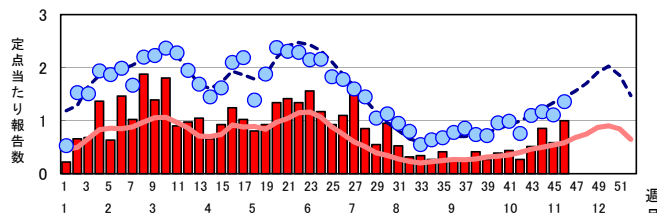
3 主な感染症の定点当たり報告数の推移

<小児科定点>

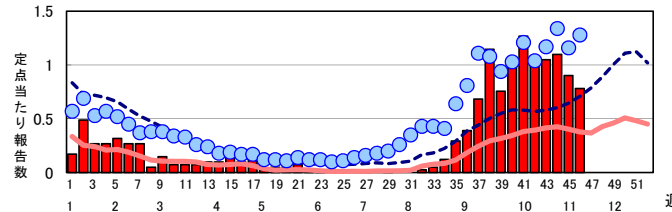
1 感染性胃腸炎



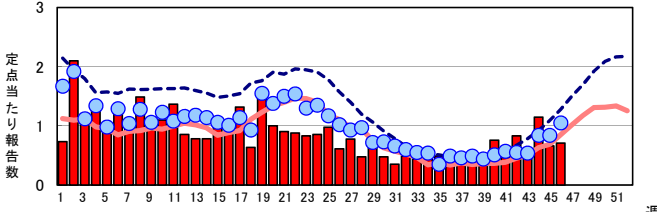
2 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎



3 RSウイルス感染症

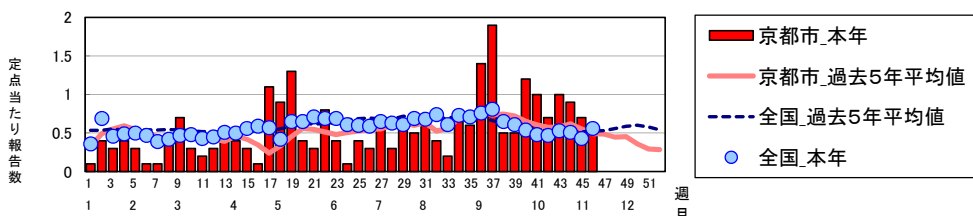


4 水痘



<眼科定点>

流行性角結膜炎



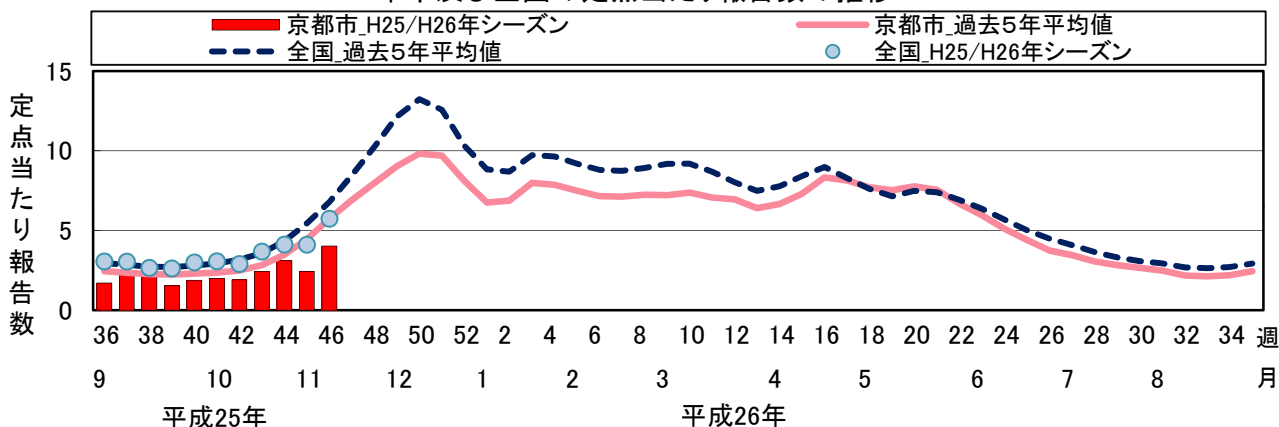
第46週(11月11日～11月17日)トピックス: <感染性胃腸炎>

感染性胃腸炎の定点当たり報告数は4.02(165例)で、前週 2.44(100例)に比べ約1.6倍増加しています。例年、ノロウイルス感染を原因とする感染性胃腸炎が冬季に増加し、11月～1月中旬にピークを形成しますので、今後の動向に注意が必要です。

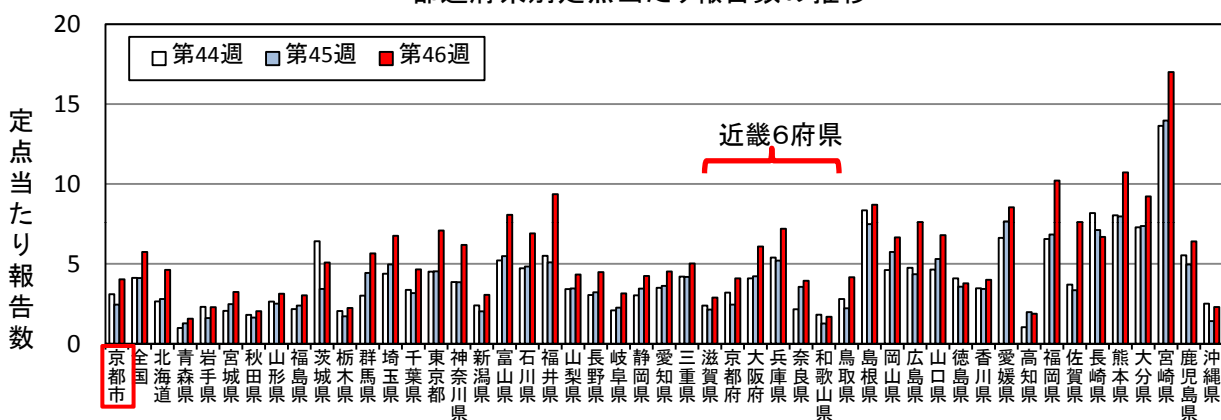
都道府県別における定点当たり報告数の推移をみると、高知県及び長崎県を除く45都道府県で前週より増加しており、そのうち8道府県(北海道、神奈川県、福井県、京都府、鳥取県、広島県、佐賀県、沖縄県)では前週の1.6倍以上となっています。

年齢階級別では、各年齢層から報告がありますが、1歳及び2歳が各19例(11.5%)と最も多くなっています。

本市及び全国の定点当たり報告数の推移



都道府県別定点当たり報告数の推移



年齢階級別割合の推移

